

東地区

総合計画はだの2030プラン後期基本計画

地域が考えるまちづくり計画案



令和7年3月

東地区
地域まちづくり計画策定会議

1 現状と課題

(1) にぎわい

田原ふるさと公園には、農産物の直売所やそば処を備えるふるさと伝承館、「実朝まつり」が開催される中丸広場があり、市内外から訪れる人々に、東地区の魅力を発信するにぎわいの拠点となっています。

また、地区内に点在する拠点のひとつである緑水庵においては、今後の活用に向けた整備が進められるなど、地区内での更なる集客が期待できます。

地区のにぎわい向上を目指すため、市と地域の連携による各拠点の魅力を再発見・再構築が求められています。

<策定会議の意見より>

●緑水庵の駐車場等整備状況を反映

- ・ 11月、緑水庵（蓑毛）に駐車場・多目的広場がオープンし大型バスも停められるようになった。利便性が大幅に向上し更なる期待ができるので緑水庵を追記してはどうか。

(2) 生活環境

東小学校周辺には、東公民館をはじめとした地域生活の中心となる施設があります。

こうした生活を支える各施設の効果的な活用による子育て環境の充実や、多世代が生活しやすい環境づくりが求められています。

<策定会議の意見より>

●公民館の果たす役割が重要

- ・ 公民館を具体的に明記して、最大活用と地域で活性化につなげる。
- ・ 東地区は、住民が居住する土地の多くが調整地区であり、新しい住人の転居も無く、高齢化と少子化が進行し過疎化が加速しているため、家を担う次世代が親の家庭を守る環境の整備が求められている。

(3) 交通・防災

地区の大半が山間部である東地区は坂道が多く、店舗も地域により偏りがあるほか、バスの減便等により交通利便性が低下し、高齢者等の買い物困難者の増加が大きな課題となっていることから、具体的な対応策の検討が求められています。

また、災害時には蓑毛地区が孤立する可能性があり、防災面での対策の強化が求められています。

<策定会議の意見より>

●買い物困難者への対応が喫緊の課題

- ・「買い物困難者が増加することが懸念されます」とありますが、懸念されますではなく最重要課題として取り上げる必要があると思います。東地区では市全体と比べて高齢化率が高いうえに、公共交通である神奈中のバスに頼るところが非常に大きく、減便等により交通手段が著しく不便になっている。
- ・買い物困難者対策として買い物タクシーを検討する。

(4) 自然環境

東地区には、丹沢から続く森林や農地、金目川や葛葉川などを背景とした豊かな自然が広がっており、その保全と有効活用が求められています。

一方、里山林の荒廃を背景に発生している農地等での鳥獣被害が年々拡大しており、専門家の協力による有効な防除対策や鳥獣の住み場となる藪や竹林を解消する活動も求められています。

<策定会議の意見より>

●年々拡大する鳥獣被害への対応が重要

- ・里地里山の環境保全、東地区が自然環境が豊かであるが近年ではますます鳥獣被害が悪化してきている。市、農協、各団体、農家が一体になって荒廃地の整備を計画する。
- ・鳥獣被害に関して、年々市街地まで鳥獣被害が広がっており、研究者の協力を得て有効な対策の検討が必要と思われます。

1 現状と課題（続き）

(5) 歴史・文化

豊かな自然環境に加え、東地区には、中丸遺跡、波多野城址、源実朝公御首塚、大日堂、旧芦川家住宅母屋（緑水庵）等の歴史的・文化的遺産が多数点在しています。

各遺産を保全するだけでなく、有効活用と情報発信を行うため、ウォーキングマップや散策路、トイレ等に係る整備の検討が求められています。

また、これらの遺産を次の世代へ継承していくためにも、研究者、伝承者及びその育成への支援が求められています。

<策定会議の意見より>

●文化遺産の保全、それらの活用に向けた整備等が重要

- ・ウォーキングマップの整備…文化遺産の保全。
- ・「…その有効活用と情報発信が求められます。」とあるが、研究者、伝承者及びその育成事業への支援を追加すべきと考えます。
- ・散策路の整備とトイレを考える必要がある。

(6) 地域コミュニティ

東地区は、人口に比べて自治会の数が多く、自治会運営のための役員の負担が大きくなっています。さらに、少子高齢化による自治会、子ども会の加入率の低下に加えて、コミュニティ活動の担い手不足により、地域のつながりが希薄となることが懸念されています。

見守り活動をはじめとした地域コミュニティの活性化を図るため、自治会役員の負担軽減や地域課題の解決に向けて行動する人材を継続的に育成することが求められています。

<策定会議の意見より>

●持続可能な自治会活動に向けた検討、対策が重要

- ・地域の自治会運営に対し、大きな課題として、役員の担い手としてなかなか受け入れて頂けない現状があります。現役員も、仕事をしながら参加されていますので、負担軽減が最重要課題だと思います。
- ・「適切な組織形成…」以下を削除。地域の自然環境、歴史・文化に関心を持ち（つまり地元のことをよく理解し、又は理解しようとしながら）、かつ東地区のにぎわい、生活環境、防災・交通の課題に目を向けることが出来る人材育成を継続的に行うことが求められています。

2 目指すまちの姿

(1) 目指すまちの姿(将来像)

豊かな自然環境の中で、歴史や文化が調和した住みよいまち

(2) 基本理念（みんなの思い）

心の絆を大切にするまちづくり

(3) 地域づくりの基本目標

- ① 住民が誇りにできる丹沢や大山、湧水等の豊かな自然と、史跡や文化財等の遺産を積極的に生かしたまちづくり
- ② 豊かな自然に囲まれたゆとりある環境を大切にした、安全で安心して暮らせる持続可能なまちづくり
- ③ 日常のふれあいや見守り、助けあいなどを通して生み出される連帯感や信頼関係を基礎に、自分たちが住んでいる地域をみんなの力で支えあい、住みよくしていく心の絆を大切にするまちづくり

<策定会議の意見より>

●目指すまちの姿（将来像）

- ・ 豊かな自然環境の中で、歴史や…住みよいまち。

●共同活動の具体化<地域づくりの基本目標>

- ・ 日常のふれあいや見守り、助けあいなど、一人ひとりの共助を通して、自分たちが住んでいる地域での日常生活が安全で安心して暮らせるよう、みんなで支えあい、つながりを大切にするまちづくり。

3 地域版リーディングプロジェクト

【プロジェクト名】

田原ふるさと公園等を生かした地域活動

【プロジェクトの背景・目的】

●活用が期待される拠点施設が地区内に点在している

- ・田原ふるさと公園、中丸広場の適切な維持管理、定期的なイベントの開催等によりにぎわいの向上が期待できる。
- ・拠点施設の1つである緑水庵の整備が進められており、拠点施設の地域における更なる活用が望まれている。

●地域活動の担い手が不足している

- ・高齢化に伴い自治会活動の担い手が減り、自治会役員の負担が大きくなっている。
- ・東地区まちづくり運動実施委員会に新たな市民団体等を加えることで、横の連携を図るとともに、新たな担い手の発掘が期待されている。
- ・行政と連携した地域の人材育成を検討する。

●自然保護活動が求められている

- ・里山林の荒廃を背景に、農地の鳥獣被害が発生しており、里地里山ボランティア団体を中心に、地域や小・中学生、企業と連携した自然保護活動の推進及び地域や行政等が連携した鳥獣対策の強化が求められている。

<策定会議の意見より>

●担い手のすそ野を広げることが必要

- ・プロジェクトの内容から東海大学生への表記について、接点がない。大学生の活用は難しい。
- ・「地域活動の担い手が不足している」について、少子高齢化及び過疎化が進行していることから、各種役員等の担い手が減少している。このため、東地区のまちづくり実行委員会の組織に新たな東地区内の市民団体等を加え、横の連携を図り、新たな担い手の発掘を検討する。
- ・若者の参加を促すため、小～大学等、学校及び市内在中の企業へイベント参加を進める。
- ・OBの方々の活用、協力をお願いするとの事ですが、アドバイスをお願いする位なら分かりますが、積極的に協力をお願いするのは、どうかと思います。
- ・地域活動…以下を追記⇒地元（地区）のコミュニティのあり方を、各地区のリーダーの交流をつくり、あるべき姿を考え、行動できる人材を育成する。

【プロジェクトの内容】

- 地域と行政が連携した田原ふるさと公園、伝承館、源実朝公首塚周辺のより一層の活性化の検討
- 田原ふるさと公園、緑水庵、ヤビツ峠のヤビツ峠レストハウス等を活用した地域活動（フリーマーケット、骨董市、自然観察ツアー、史跡巡りツアー等）の開催
- 里地里山ボランティア団体を中心とした、地域や小・中学生、企業の地域イベントへの参画
- 市と地域が連携した各拠点の維持管理

【推進体制】

- 自治会を含めた地域全体、各種ボランティア団体、行政等が連携して、まちづくりを進める。

4 主な取組み・すすめる活動（地域主体の取組み・地域と行政との協働の取組み）

基本目標	主な取組み・すすめる活動	主体
① 住民が誇りに できる丹沢や 大山、湧水等 の豊かな自然 と、史跡や文 化財等の遺産 を積極的に生 かしたまちづ くり	●地域と市が連携した田原ふるさと公園周辺のより一層の活性化の取組み - 田原ふるさと公園、中丸広場、源実朝公御首塚周辺一体の、魅力の再発見とにぎわいづくり - スポーツ大会など、人が集まるイベントの検討 - 地域住民の憩いスポットづくり - 地域と行政が協働して行う公園及び植物苑の継続的な維持管理 - 伝承館や直売所の魅力を高める活用の検討（日用品の取扱い、フリーマーケット、骨董市の定例化など）	行政・自治会・ふるさと公園連絡協議会・まちづくり委員
	●観光資源のネットワーク化や新たな魅力の掘り起こしと情報発信 - 田原ふるさと公園、ヤビツ峠、自然観察の森、緑水庵、史跡や棚田などを結ぶ観光資源のネットワーク化 - 実朝まつりの魅力発信及び次世代への継承に向けた整備 - 市と連携した波多野城址の維持管理と活用 - 市と連携したヤビツ峠の交流拠点施設の有効活用 - 休耕地や遊休地を活用した世代を超えて自然を楽しむ取組みの検討 - 道祖神やダイヤモンド富士など、東地区から見える魅力ある資源のSNS等を活用した効果的な情報発信 - 二次元コードを活用した観光案内の促進	行政・地域全体

＜策定会議の意見より＞

●実態に応じた実施主体の位置付けが必要

- 主体：婦人会の削除、ふるさと公園連絡協議会追加。

●イベント等の開催により、訪れてもらうことが重要

- 小さなマラソン大会（1km、2kmなど）。子ども～大人までが集まれるようにする。色々な飲み物、食べ物を提供して走る。

●地域と行政の協働による公園及び植物苑の持続可能な維持管理が必要

- 秦野金槐植物苑の植物の管理は、市の学芸員と長寿会のボランティアと打ち合わせで聞きましたが記載が無く、具体的に記載することで総合的な管理及び必要な支援ができると思います。

●観光資源の活用等に向けて、持続性を高めることが重要

- 実朝まつり盛大化？大きくする気持ちはなく、次世代への継承・整備を優先していきたいです。
- 「市との連携による波多野城址の活用」とあるが、城址の維持管理については大半を寺山長寿会に委ねられている。メンバーの高齢化や自然減により悲鳴の声も上がっていることから「市と連携した波多野城址の維持管理をその活用」に見直してはどうか。
- 二次元コード利用の促進を追加記載し、関連する観光資源への案内を積極的に行うよう推進することでネットワーク化の推進も期待されたいと考えます。

基本目標	主な取組み・すすめる活動	主体
① 住民が誇りに できる丹沢や 大山、湧水等 の豊かな自然 と、史跡や文 化財等の遺産 を積極的に生 かしたまちづ くり	●家庭、学校、地域の連携による地域文化の伝承 ・ 道祖神の伝承 ・ あずまの里・稲づくり体験教室の継続 ・ 実朝まつり教室の実施など、地域の歴史や文化を守り伝える取組み ・ 地域の子ども会活動やお祭り等を通じた地区活動の継承	学校・地域全体
	●歴史、文化、自然などに親しむハイキングやウォーキングルート等の調査・発信 ・ 地域を周回できるウォーキングルートの検討 ・ ヤビツ峠から岳ノ台までのハイキングルートのPR ・ 国登録有形文化財に登録された大日堂や仁王門、緑水庵、菜の花台、ふるさと公園などをつなぐ観光ルートのPR ・ 道祖神巡りのマップづくり ・ ハイキングやウォーキングルートにおけるトイレや標識等の整備の検討	行政・地域・ボランティア団体

<策定会議の意見より>

●地域の歴史や文化を守り伝える取組みについて、現状を的確に反映することが重要

- ・ 「蓑毛大山信仰」を変えて、「実朝まつり教室の実施」による地域の歴史…。令和6年10月15日東小学校4年生を対象とした授業を実施した。今後も継続していきたい。
- ・ 学校は、働き方改革のため教員等の協力が得られないが、地域の子ども会やお祭りなどを通じた古くからの地区活動の継承を図る。
- ・ 途絶えた文化芸能が有るなら、復活・伝承を図る。

●快適なハイキングやウォーキングルートの整備が重要

- ・ 緑水庵については、国登録有形文化財に指定された。
- ・ 東地区は、歴史・文化に触れる場所・施設が多く、また自然が豊かで、ハイキングやウォーキングルートを散策するのが楽しみです。市の発行する散策マップを巡る事が有りますが、気になるのはトイレの有無です。
- ・ ハイキング、ウォーキングのルートに標識を立てる。

4 主な取組み・すすめる活動（地域主体の取組み・地域と行政との協働の取組み）（続き）

基本目標	主な取組み・すすめる活動	主体
② 豊かな自然に 囲まれたゆとり ある環境を 大切にしたい、 安全で安心して 暮らせる持 続可能なまち づくり	●里地里山の保全・再生 ・ 里地里山ボランティア団体を中心に、地域や小・中学生と連携した自然保護活動の推進 ・ 地域や行政等が連携した鳥獣対策の強化	ボランティア団体・自治会・小学校・中学校・行政・関係団体
	●交通安全・防犯対策の充実 ・ 児童・生徒の登下校の見守りの充実 ・ 適切な交通ルールの徹底等によるサイクリスト等の安全対策の推進 ・ 高齢者を対象とした交通安全教室の開催 ・ わんわんパトロール及びランニングパトロールによる地域の巡回	地域全体 行政

＜策定会議の意見より＞

●実態に応じた実施主体の位置付けが必要

- ・ 東海大学生について削除。
- ・ 小学生参加（社会科の勉強）。

●官民が連携した鳥獣対策の強化が重要

- ・ 近年ますます鳥獣被害が多発するようになってきている。そのため農家が耕作を諦め、そのことにより鳥獣が住む環境が広がり、余計負の連鎖となっている。市、JA、生産組合、関係団体が一体となって取り組んでいく。

●時代に対応した交通安全対策の充実が必要

- ・ サイクリスト・マラソンランナー等の大幅な増加に対して適切な交通ルールの徹底を図る。
- ・ 新東名高速道路工事について削除。
- ・ 高齢者の交通安全教室開催。

●防犯対策の位置付けが必要

- ・ 12/5の日本経済新聞に「住民、警察などと草の根活動」として、わんわんパトロール、ランニングパトロールの活動が記事となっていました。東地区として推奨し、交通安全、防犯の推進を提案いたします。

基本目標	主な取組み・すすめる活動	主体
② 豊かな自然に 囲まれたゆとり ある環境を 大切にしたい、 安全で安心して 暮らせる持 続可能なまち づくり	●買い物困難者への支援等 - 公共交通機関の積極的な活用により、公共交通機関の維持、充実につなげるとともに、免許を返納しても買い物困難にならないような生活習慣づくり - スーパーマーケットと連携した商品配達と野菜の集荷の仕組みづくり - 移動スーパーの利用促進や買い物タクシーの導入に向けた調査・検討	民間（スーパーマーケット等）・地元農家

＜策定会議の意見より＞

●買い物困難者に対する具体的な対策が必要

- ・ 買い物困難者は、高齢化の進行に伴い、今後ますます増加し併せて、バス等の交通手段の減少が見込まれるため、移動スーパー事業者のエリア拡大を要望する。
- ・ 買い物タクシーを利用する。

4 主な取組み・すすめる活動（地域主体の取組み・地域と行政との協働の取組み）（続き）

基本目標	主な取組み・すすめる活動	主体
③ 日常のふれあいや見守り、助けあいなどを通して生み出される連帯感や信頼関係を基礎に、自分たちが住んでいる地域をみんなの力で支えあい、住みよくしていく心の絆を大切にすまちづくり	●組、自治会、子ども会などのコミュニティの充実による防犯・災害対策の推進 - 自治会の運営に若い世代を呼び込むための情報発信の工夫及び時代に即した活動内容への見直しによる自治会、子ども会加入の魅力や必要性のPR - あいさつ運動や地域防犯パトロールの実施による日頃からのつながりの強化 「いちのいち」などを活用した効率的な情報共有 - 災害弱者の見守りや助けあい活動の推進 - 避難行動要支援者名簿の地域内共有	自治会・子ども会・行政・関係団体
	●地域コミュニティのあり方の再検討 - 行政と連携した自治会運営の検討 - 自治会役員の負担を軽減するための取組みの検討 - 地域の伝統行事の適切な継承 - 単位自治会の枠組みを超えた連携	自治会・行政

＜策定会議の意見より＞

●地域の現状を踏まえた、効果的・効率的なコミュニティ活動を目指すことが重要

- ・地域防犯パトロールの推進。
- ・「あいさつ運動」の日を設け、あいさつの重要性を地域の人達の意識改革を行う。
- ・若者が地域では生活できないため、各家庭が高齢世帯、ひとり暮らし高齢世帯の増加が加速していることから、災害弱者だけでなく、地域全体の各世帯ごとの横の連携とコミュニティの醸成を図る。
- ・「いちのいち」「LINE」等の活用を推進したコミュニティ運営を効率化。

●持続可能な地域コミュニティのあり方を模索することが重要

- ・「世帯数の少ない自治会の統合の検討」は主体を自治会にだけ委ねず行政も入って早急に進めて頂きたい「行政と連携した少世帯自治会の統合の検討」と見直してはどうか。

基本目標	主な取組み・すすめる活動	主体
③ 日常のふれあいや見守り、助けあいなどを通して生み出される連帯感や信頼関係を基礎に、自分たちが住んでいる地域をみんなの力で支えあい、住みよくしていく心の絆を大切にすまちづくり	●子育て世代の交流環境づくり ・ 母親同士の交流を生み出す幼児向けの公園やサロン等の整備 ・ 子育て世代の居場所づくり ・ 東公民館を活用した子どもたちが遊び、学べる居場所づくり ・ コミュニティへの参加に向けた子育て世帯同士の相談会等の開催 ・ 敬老会等を通じた子育て世帯と地域の交流の推進	行政・自治会・子育て世代

＜策定会議の意見より＞

●公民館の活用が重要

- ・ 東小学校周辺を学び舎の拠点として、東公民館に常時子ども達が集まって、勉強や遊ぶ事が出来るように一部会議室を開放する。

●子育て世代にとって居心地がよく、多世代との交流も可能な環境づくりが重要

- ・ 母親同士のコミュニティ参加に向けた相談会/研修会（負担感を増やさないために、特定イベント（限定がよいと思う）の為の研修会。
- ・ 敬老会に子育てママ（幼児）を招待し交流する。

5 東地区地域まちづくり計画策定会議のあらまし

(1) 地域まちづくり計画策定会議委員（選出分野）

東地区地域まちづくり運動実施委員会	東地区自治会連合会
東財産区議会	秦野市消防団第3分団
東地区民生委員・児童委員協議会	東地区体育協会
東地区子ども会育成連絡協議会	防犯指導員連絡会
青少年育成活動推進部会	大学生

委員数23名

(2) 主な検討経過

回数	日程・会場	内容
第1回	令和6年11月30日（土） 18：00～ 東公民館 集会室A	・総合計画後期基本計画における地域まちづくり計画の策定について ・前期地域まちづくり計画における取組みについて ・「地域が考えるまちづくり計画案」の検討に向けて（基本データ等の紹介） ・「地域が考えるまちづくり計画案」の策定に向けて（意見交換、課題カードの配付） ・今後の予定について
第2回	令和7年1月25日（土） 18：00～ 東公民館 集会室A	・地域まちづくり計画の検討について ・今後の予定について
第3回	令和7年2月15日（土） 18：00～ 東公民館 集会室A	・地域まちづくり計画の検討について ・今後の予定について

